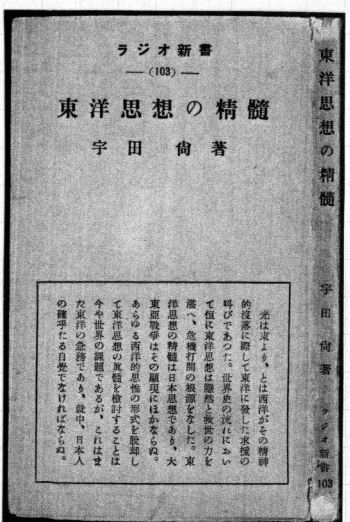


宇田尚 （1881-1951） 倫理學者。明治三十四年東京生れ（一八八一）。中央大學經濟科卒。實業界に入り數社を統理のち東洋思想研究所を設立。支那事變中、北京臨時政府文教部最高顧問、東亞文化協會理事等兼任。次いで北京前總領事院副院長、東洋女子齒科醫科專門學校校長、斯文會理事等も務めた。

著書に『對支文化工作草案』（昭和十四年四月十八日改造社）、『日本文化の性格』（合著・司法保護協會「昭徳」編輯部編、昭和十六年七月十五日文録社）、『東洋思想の精髓』（昭和十八年七月二十日日本放送出版協會「ラジオ新書」）、『經濟濟世の大本』（昭和十八年十一月）『東洋思想研究所』等。



ラジオ新書
— (103) —
東洋思想の精髓
宇田 尚 著

是は其より、とは南洋がその精神的投資に對して東洋に對して其後の呼びであった。世界史の流れにおいて但に東洋思想は經濟的救済の力を遣へ、危機打開の旗幟をなし、東洋思想の精髓は日本思想であり、大東亞思想はその発展にはかゝらぬ。あらゆる西洋思想の形式を脱却して東洋思想の真髓を探討することは、今や世界の課題であるが、これはまた東洋の急務であり、故に、日本人の擔子たる自然でなければならぬ。

東洋思想の精髓
宇田 尚 著
ラジオ新書 103